

第 52 回多摩川流域セミナー 開催報告（速報版） ～アユを通して多摩川の夢を語る～

○日程：2019年11月24日（日）13:00～17:00

○場所：二ヶ領せせらぎ館 2階会議室

○主催：多摩川流域懇談会

当日のプログラム

項目	時間	場所	参加者数
魚道見学会 二ヶ領宿河原堰での魚道見学	13:00～13:25	二ヶ領宿河原堰	
第1部：話題提供 『多摩川における魚類の遡上状況等について』 『荒川水系・新河岸川流域におけるアユに関わる市民活動』 『多摩川におけるエコデモを見る』 『次世代の河川教育に求められる多摩川流域の姿』	13:35～15:45	二ヶ領せせらぎ館 2階会議室	一般参加者 23名 登壇者 6名
第2部：ディスカッション	15:55～16:55		

1. 魚道見学会

第1部として、二ヶ領せせらぎ館の傍にある二ヶ領宿河原堰の、右岸側に設置されている魚道の見学を行いました。普段は入ることのできない堰の管理橋の上から堰を見学でき、貴重な機会となりました。堰に設置されている魚道について、京浜河川事務所の野口河川環境課長より説明がありました。二ヶ領堰には2種類の魚道が設置されており、一つは国内での適用事例が多い階段式魚道、もう一つは遡上途中の魚類が休息できるアイスハーバー式魚道とのことです。

今回の見学では、先日の台風19号により流されてきた土砂や流木が魚道の入り口を塞いでおり、また点検のため魚道下流の堰が倒されていたため、魚道に水が流れておらず、魚道の構造をはっきりと確認することができました。

なお、京浜河川事務所では、魚道にたまった土砂の除去等の維持管理を定期的に行っており、来期のアユの遡上時期までに魚道が正常に機能することを目指しているとのことでした。



見学前の説明



魚道の説明



二ヶ領堰に設置されている魚道

2. 話題提供

- 『多摩川における魚類の遡上状況等について』
(京浜河川事務所河川環境課長 野口典孝氏)

京浜河川事務所の野口氏より、多摩川における魚類の遡上状況等についての発表がありました。多摩川では、魚道の設置や下水道の普及等が行われ、それに伴いアユの遡上数や遡上状況、水質等の調査が実施されてきました。それらの調査から得られた知見についてご説明頂きました。



野口典孝氏

- 『荒川水系・新河岸川流域におけるアユに関わる市民活動』
(新河岸川水系水連絡会代表 菅谷輝美氏)

新河岸川水系水連絡会の菅谷氏より、荒川水系・新河岸川流域の市民活動についての発表がありました。新河岸川流域では、流域全体で市民によるアユの保全活動が行われており、産卵場や魚道づくり、また稚魚の放流等が行われているそうです。また、アユの遡上個体数と流量・アンモニア濃度を調査した結果、それらに関連がみられたとの説明がありました。



菅谷輝美氏

- 『多摩川におけるエコデモを見る』
(（一財）エコロジカル・デモクラシー財団 土肥真人氏)

エコロジカル・デモクラシー財団代表理事の土肥氏より、多摩川におけるエコロジカル・デモクラシー(エコデモ)についての発表がありました。自然(エコロジー)と社会(デモクラシー)の両方を同時に考えて活動を実践するというエコデモの概念についての説明があった後、実際の活動として、多摩川流域の水辺の楽校等に参加しヒアリング調査やワークショップを行っていること、それらを通じて多摩川の活動の魅力や価値を再発見しようとしていることを説明いただきました。



土肥真人氏

- 『次世代の河川教育に求められる多摩川流域の姿』
(東京大学准教授 知花武佳)

東京大学の知花准教授より、次世代の河川教育に求められる多摩川流域の姿についての発表がありました。現代の学生が考える理想の河川像を例に挙げ、時代とともに川と人との関わり方が変わりつつあり、人と川の距離感が遠くなっていると説明がありました。一方で、流域内で非常に活発に市民活動が行われている多摩川の特異性にふれ、多摩川でならば人と川との関わり方を改善できる可能性があるという熱いお言葉を頂きました。



知花武佳氏

3. ディスカッション

コーディネーター 佐山公一氏

コメンテーター（以下6名）

○野口典孝氏 ○菅谷輝美氏 ○土肥真人氏 ○知花武佳氏

○小堀洋美氏（東京都市大学 特別教授）

○神谷博氏（多摩川流域懇談会 運営委員長）

第3部ではディスカッションコーナーが設けられました。話題提供で講演頂いた方々に加え、コーディネーターとして佐山公一氏、コメンテーターとして小堀洋美氏、神谷博氏に参加頂き、セミナー参加者の皆様からのご質問に回答して頂きました。参加者からは魚道や河川教育についてなど、幅広い質問が寄せられました。（下記、一例）

Q 小河内ダムに魚道を整備する計画はありますか？

A（野口氏）小河内ダムは東京都が管理するダムで、現時点では魚道整備の計画は聞いておりませんが、そのすぐ下流の白丸ダムでは、魚道が整備されています。

Q 私は河川の植生を学生に指導していますが、良い植生を学生たちに見せることが出来ません。学生たちにどのような植生が良いと伝えたいのでしょうか。

A（知花氏）河川における、理想の河川とは一つではありません。

河川は様々な特徴からいくつかのパターンに分けることができますが、それらパターンの違う河川をできるだけ多く見せることが重要だと思います。それらを見せ、皆で考えていくことが河川教育のスタートとなると考えています。



神谷博氏



ディスカッションの様子



小堀洋美氏